

No 2

Japan  
Handball  
Association



社会人  
 学生  
 高専  
 高体連  
 中体連  
 小学生

全国大会  
 ブロック大会  
 都道府県大会

男子  
 女子

試合  
番号 **貴愛女子-女1**

# ハンドボール

年月日 2023 年 7 月 26 日 (水)  
 大会名 令和5年度全国高等学校総合体育大会ハンドボール競技大会

## 公 式 記 録 用 紙

A		岡山県立玉野光南高等学校						新潟県立長岡大手高等学校						B				
都道府県		市町村		会場						回数								
北海道		函館市		遺愛女子高等学校アリーナ						1回戦								
前半	A	B	最終 結果	A	B	第1 延長	A	B	第2 延長	A	B	7m追加 シフト	A	B				
	21	3	41	9														
7m得点/総数		A	チームタイムアウト			チームタイムアウト			B	7m得点/総数								
1/3		1	2	3	1	2	3	1/2	2608									
										0730 0847 2528								
No.	玉野光南						G	W	2'	D	DR	No.	長岡大手					
1	半田 咲來											1 c	新飯田 実咲					
2 c	荒井 美咲						9					2	原田 袖羽					
3	武縄 泉吹						7					3	梅本 華					
4	山地 乃暖実						4					4	中林 愛結					
5	林 花鈴						5					5	五十嵐 美月					
6	濱田 みやび						1					6	大矢 結月					
7	村瀬 咲音						7					7	佐藤 亜美					
8	稲田 乃愛								1			8	阿部 小結芽					
9	海野 心彩						3					9	諸橋 ひじり					
10	前田 華鈴											10	小山 春花					
11	山崎 裕愛						2					11	佐野 茉那					
13	野田 しなの						2					12	宮島 杏理					
14	井上 優						1					13	武田 萌花					
												14	柳 茉穂					
監督A	平松 恭子											監督A	丸山 祐一					
役員B	細江 守男											役員B	近藤 朱美					
役員C	小畑 貴章											役員C	武士俣 来未					

A	チーム役員A署名						B
特記事項							

レフェリー	齊藤 祥夫	岡本 翔平		
TD	平松 裕	輪島 宏		
MO				

得点(G),警告(W),退場(2),失格(D),報告書付き失格(DR)特記事項に報告書として内容を記入



# No 21 ハンドボール

令和5年度全国高等学校総合体育大会ハンドボール競技大会  
高松宮記念杯第74回全日本高等学校ハンドボール選手権大会

## 試合結果・戦評報告書

競技日	2023年7月26日(水)		会場	遺愛女子高等学校アリーナ	
種別	女子		回戦	1回戦	
チーム名			チーム名		
県立玉野光南高等学校(岡山)			県立長岡大手高等学校(新潟)		
得点合計	小計		小計	得点合計	
41	21	前半	3	9	
	20	後半	6		
		第1延長前半			
		第1延長後半			
		第2延長前半			
		第2延長後半			
		7mTC			

戦評
<p>遺愛女子高等学校アリーナでの開幕ゲームは、平成24年以来4度目の出場を果たした長岡大手のスタートで始まった。3年連続21回目出場の玉野光南は高い位置での積極的なディフェンスから速攻につなぎ、2番荒井のカットインプレーで初得点を挙げると、効果的に得点を重ね7対0と大きくリードを広げた。長岡大手はたまたまずタイムアウトを要求し流れを変えようと試みるが、その後も主導権を握る玉野光南は2連取し、9対0とした。9分を過ぎたところで、長岡大手の3番梅本がディフェンスの裏に走り込み待望の初得点を挙げた。その後、7mTを1番新飯田が好セーブし、6番大矢の得点で流れを掴むかに見えたが、玉野光南の速攻や右ウィング7番村瀬のシュートなどで7連取し、点差を広げていった。前半終了間際には、1番新飯田の5連続セーブで意地を見せるも、21対3と玉野光南が大きくリードして前半を終えた。</p> <p>後半立ち上がりから玉野光南の鋭い出足からの積極的なディフェンスに攻め切れない長岡大手は、ターンオーバーからの速攻を連続して決められ、点差が拡大していく展開となった。相手の高い位置からのディフェンスに対応し始め、セットオフenseでもシュートまで持ち込めるようになった長岡大手であったが、効率よく得点を決める玉野光南の優勢は変わらなかった。終盤には連続得点をするなど、一進一退の場面も見られたが、序盤からのリードを広げながら攻守にわたって主導権を握り続けた玉野光南が41対9で勝利した。</p>

記入者	小山石 桂
-----	-------